

# ジェンダーをめぐるコミュニケーション齟齬の研究（1）

——ジェンダー概念の日本への導入（1970年代から1990年代）——

首都大学東京博士後期課程 須永将史

## 1. 目的

日本においてジェンダー概念が使用されたのは1970年代以降のことである。本報告では、日本でのジェンダー概念の初期の使われかたや意味に焦点を向け、どのような特徴があったのかを明らかにする。また、どのような経緯で日本においてジェンダー概念が使われるようになってきたのか、どのような意義があったのかを明らかにする。

## 2. 方法

1970年代に、ジェンダー概念を分析の中心に据えた文献が欧米のフェミニズムにおいて刊行され始める。その後、1980年代以降、日本においてもジェンダー概念が用いられるようになった。最終的には1990年代において生物学的・解剖学的性差としてのセックスに対し、社会的・心理学的性差としてジェンダーが用いられるという用法が定着した。このような意味の形成までにどのような変遷があったのか、文献の参照関係と語としてのジェンダーの使用法に焦点を向けながら、明らかにする。

## 3. 結果

セックスに対比的な概念としてのジェンダー概念の使用は、1980年代の上野千鶴子のイリイチ批判を契機に日本のアカデミズムに浸透していった。それ以前にさかのぼった場合、「セックスとジェンダー」ではなく、「性と性別」という訳語があてられていた。また、このような「セックスとジェンダー」という対比的な使用は、ロバート・ストーラーが最初に行なった。

## 4. 結論

「セックスとジェンダー」という概念の形成は、日本において際立ったものではなく、むしろ、欧米においてそのような対比的な用法が打ち立てられた。今後はその用法の妥当性が議論される必要があることが、課題として考えられる。

### 【文献】

Jennifer Germon, 2009, *Gender A Genealogy Of An Idea* (=左古輝人訳, 2012, 『ジェンダーの系譜学』法政大学出版局.)

Delphy, Christine, 1991, "Penser le genre: quels problèmes? sexe et genre," *De la hiérarchie entre les sexes*, édité par Hurtig Kail, Rouch, Editions du CNRS. (=1998, 杉藤雅子訳「ジェンダーについて考える ——なにが問題なのか？」棚沢直子編『私たちのフランス思想』勁草書房.)

Laqueur, Thomas Walter, 1990, *Making Sex: Body and Gender from the Greeks to Freud*, Cambridge: Harvard University Press. (=1998, 高井宏子・細谷等訳『セックスの発明——性差の観念史と解剖学のアポリア』工作舎.)